

平成二十三年（二〇一一年）二月二十七日 離婚

神から人へ、人から神へ。

多くの地上の汚れ曇りは、いつまで残り、留まるや。

今また人はさらにも多くの、汚れ過ち、積み重ね来る。

これから後にも人の受難は、汚れ曇りの祓われるまで、幾度も重ねて、終わることなし。

さにて本日、人の世界の離婚について、神の次元の視点を伝えむ。

人の世にては過ちも、神の世界に当てはまらぬ、人の世独自の罪汚れあり。

人には人の世を守る、法律秩序あればなり。

なれど人の本性は、法律秩序に縛られぬ、野性 獣性 残るもの。

一つの対の雌雄にて、その生涯を終えること、そは知性なり、理性なり。

知性の前に、感性あり。感性の前に、本能あり。

知性を伴う愛あらば、生涯男女は夫婦を保たむ。

なれどどちらか欠けたらば、人は夫婦の契りを破り、欠けたるものを求め追うもの。

知性は勝手な理想を夢見、己の独善、妄想を、いつしか愛と過てり。

本能のみの愛にては、夫婦の愛は成り立たず。日毎に変わる愛の相手よ。

同じ感動、喜び悲しみ、互いの感謝の上こそ、夫婦の愛は保たれむ。

離婚は人の世のことなり。法律制度の決めごとなれば。

なれど夫婦も一つの縁なり。この世で出会いて子を残り、本能のみの愛になき、尊き愛を学ぶため。

感謝や感動、そを高め、共に享受す幸せ知るため。

離婚は哀しき結果ならむ。

この世に出会いし縁なれど、知性が働き、心を冷まし、ついには愛は冷え切れり。

或るは又、別なる異性に本能目覚め、理性知性は働かず。

いずれも人の世の常なり。昔も今も繰り返さるる、愚かに哀しき人の性。別れを選ぶも致し方なし。

出会いがあらば、別れもあらむ。よく別れるが大切なり。

憎み恨みを残す別れは、心の毒を増させる素なり。

相手を憎まず、許し別れよ。

心をそよ解き放ち、出会いしときから今日までの、感謝を残して、心を離せよ。

どちらかのみが悪しきにあらず。

互いが互いを傷つけ合いし、悲しき出会いを共にせしもの。なればどちらも哀れむべし。

この世の縁はこの世限り。なれば稀なる縁を尊び、悪しき思いは断ちてゆけ。

結婚は、人の作りし制度なれども、出会い別れは制度にあらず。

子孫を残す務めを果たさば、別れることも許されむ。

出会いも別れも奇しき縁。よきも悪しきも本来なし。そを決めるのは生き方次第。

よき出会いを欲さば、よく別れよ。よき別れを別れてこそ、よき出会いにも導かれむ。

出会い別れに拘ることなく、先ずはよりよき生を歩めよ。さにて。